

⑧ 片倉小十郎白石城入城四百年記念祭を実施

▶伊達家・片倉家当主も立ち
合われた白石城茶会



現在の白石市の礎が築かれるきっかけとなった、片倉小十郎景綱公が白石地方を拝領し、白石城に入城して以来、今年でちょうど400年を迎えたことを記念して、白石城周辺や碧水園で、茶会や記念講演、各種伝統芸能や小原の百矢納めなど、趣向を凝らしたさまざまな催しが行われました。

白石城完成時に掲げた、生涯学習の推進、市民のプライド意識の高揚といった大きな目標のもと、碧水園での茶道や能の普及をはじめ、市民にさまざまな伝統文化が根付きつつあります。

⑨ 安全なまちを目指して

宮城県と山形県が合同で作成していた、蔵王山が噴火した場合の被害想定区域などを地図で表した災害予測図（ハザードマップ）が完成しましたが、市では、この「蔵王山火山防災マップ」をいざというときに落ち着いて対応できるよう、11月の広報と一緒に全世帯に配布しました。



▶全68班に配備が完了した
小型動力ポンプ積載車

また、市民の皆様の生命や財産を守るため、平成元年度から、消防団の各分団に順次小型動力ポンプ積載車を配備してきましたが、今年度、全68班に配備が完了しました。これにより、迅速な初期消火が可能になり、火災などの被害を最小限に食い止めることが可能になりました。

⑩ 都市基盤の整備進む

8月2日、国道113号郡山工区(東北本線アンダーパス)および新田113号を結ぶ都市計画道路中河原白石沖線が開通しました。



▶開通した国道113号郡山工区
(白石トンネル)

両路線の開通により、国道4号および森合雁狩橋線と合わせ、市中心部の循環線が完成し、市中心部における慢性的な渋滞緩和が図られました。

さらに今年度、市街地全域を網羅するための第二期循環線である、市道沖の沢郡山線が、国の採択を受け事業着手したのをはじめ、白石蔵王駅東西広場の有料化やスパッシュランドパーク・材木岩公園の整備など、着々と都市基盤の整備が進んでいます。

⑤ 白石型デカップリングの推進

地域の環境美化・保全に向けて

市では、「柿の里構想」や小原の寒葛の生産、蔵王高原そばや内親地区のコスモスなど、白石型のデカップリング施策を展開しています。

これは、中山間地農業を安楽死させるような直接所得補償のアメリカ型制度とは異なり、耕作放棄地の減少や転作推進により地域の荒廃を防ぎ、



▶白川コスモス園

環境美化や保全を図ることを目的とした、E.U型を目指したもので、ようやくその形が見えつつあります。

また、ポーチパークや材木岩公園内の休憩施設など、作付けするだけでなく地元で消費してもらう「地産地消」のための施設整備も同時に進めています。

⑥ 完全学校週5日制スタート

4月から、毎週土曜日を休業日とする完全学校週5日制が始まりました。完全学校週5日制は、子どもたちが豊かな体験によって豊かな心を



▶いちご苗植栽会
(生ごみ資源化施設の実証温室)

はぐくめるよう、家庭や地域でのさまざまな体験活動の機会を増やしていこうとするものです。

市では、食と農の大切さを学ぶことができる福岡長袋地区の生ごみ資源化施設の整備や、スパッシュランド、ホワイトキューブ、白石城関連施設などが無料で利用できる「ホワイトパスカード」の発行など、さまざまな体験活動の機会を増やす施策を行っています。

⑦ ソニー白石セミコンダクタで新棟建設

市内の雇用情勢は依然として厳しい状況にあり、市では、公共職業安定所と共同での企業への求人要請活動や、高校新卒者に対する緊急雇用



▶建設の進むソニー白石セミ
コンダクタ棟の新棟(白鳥地内)

対策、制度融資制度など、さまざまな雇用経済対策事業を行っています。そんな中、ソニー白石セミコンダクタ株式会社では、ゲーム機やDVD機器の心臓部に使われている、主力製品の赤色半導体レーザーの生産能力増強のため、新棟建設を決定しました。

当市の産業界にとって、久々の明るいニュースとなったこの新棟建設。10月に起工式が行われ、今夏から稼働予定とのことで、今後の雇用拡大が期待されます。